KTMS
KOBE TOYOPET MOTOR SPORTS

SuperTaikyu
JapaneseEnduranceRace

ENEOSスーパー耐久シリーズ2023 Powered by Hankook
第１戦 SUZUKA S耐

2023年3月18日（土）～3月19日（日）
鈴鹿サーキット（三重県）
入場者数：3月18日　3,800人
　　3月19日　8,500人

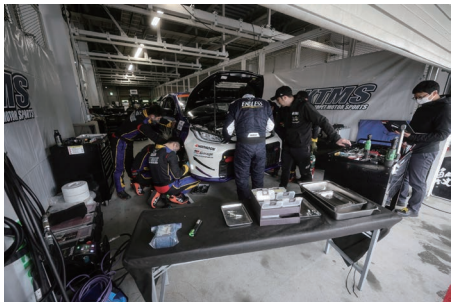
新体制での４年目の開幕戦
まさかのトラブルが次々に襲う

FREE PRACTICE

年間５勝と圧倒的なパフォーマンスをみせ、悲願のチャンピオンを獲得した2022年を経て、KTMSは2023年のスーパー耐久第１戦に臨んだ。今季、長年チームを支えた平良響を送り出し若返りを図ったチームは、荒川麟、奥住慈英のふたりを継続。新たに若き奥本隼士、そして2023年からの変更されたAドライバー規定に対応するため、長年ドライバーとして、スタッフとしてチームに貢献してきた一條拳吾を起用することになった。

ただ、本来Aドライバーにはジェントルマンを起用すべきだが、一條は若く、開幕前にペナルティが課されることになってしまった。その内容は、レース中の90秒のピットストップ。2022年にタイトルを争った#13 GR YARISも同様のペナルティを受けてはいるが、非常に厳しい内容なのは間違いない。今季のチームのコンセプトが若手育成であることからやむを得ないところだが、そのハンデを跳ね返すべく、３月16日のスポーツ走行、そして３月17日に行われた２回の占有走行に臨んだ。

初日は春らしい暖かな陽気となった鈴鹿で、今季から変更されたタイヤをトライ。走行２日目の18日は、曇り空でやや気温が低め。午前は４人が交代しながら走行し、全クラス混走となった午後は奥本に経験を積ませ、荒川、奥住と交代していくが、走行中の奥住から「異音がする」と報告が入った。デフのトラブルが予想



されたが、解決を目指し作業を行った後、３月18日午前のフリー走行に臨もうと思ったところ、今度はエンジンから異音が。このため午前は走ることができなかったが、午後の予選までにトラブルを特定していった。

3月17日　スーパー耐久 専有走行 Gr.1 結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	13	ENDLESS GR YARIS	2'18.671
2	6	新菱オート DIXCEL 夢住まい館エボ 10	2'18.724
3	743	Honda R&D Challenge FL5	2'19.105
4	225	KTMS GR YARIS	2'19.744
5	7	新菱オート DIXCEL エボ 10	2'23.529

3月17日　スーパー耐久 専有走行 Gr.1 ＋ Gr.2 結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	6	新菱オート DIXCEL 夢住まい館エボ 10	2'19.783
2	13	ENDLESS GR YARIS	2'20.767
3	225	KTMS GR YARIS	2'20.852
4	7	新菱オート DIXCEL エボ 10	2'21.176
5	743	Honda R&D Challenge FL5	2'21.798

神戸トヨペット

KTMS
KOBE TOYOPET MOTOR SPORTS

SuperTaikyu
JapaneseEnduranceRace

QUALIFY

3月18日の予選までになんとかトラブルの原因を特定し臨んだ予選。午前に降っていた雨がほんのわずかに残っていたことから、先行して行われたBドライバー予選に臨んだ荒川だったが、なぜかアクセルに対し、クイックな反応がついてこない。続くAドライバー予選での一條のときも同様で、どちらもなんとかタイムは記録し、総合では5番手につけたものの、トラブルの原因がなかなか見つからない。Cドライバー予選では奥住がトラブルの症状を抱えたままブレーキの焼き入れなどレースに向けた作業をこなした。

ただDドライバー予選の前に、ようやくトラブルの原因が見つかった。車輪速センサーをすべて交換したところ、KTMS GR YARISはようやく本来のパフォーマンスを取り戻し、奥本が初めての予選をこなした。レースまでにトラブルが解消したことは不幸中の幸いだった。

3月18日　公式予選 A＋B予選 ST-2 正式結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	6	新菱オート DIXCEL 夢住まい館エボ 10	4'34.263
2	743	Honda R&D Challenge FL5	4'35.891
3	13	ENDLESS GR YARIS	4'37.499
4	7	新菱オート DIXCEL エボ 10	4'37.948
5	225	KTMS GR YARIS	4'38.622

3月18日　公式予選 Cドライバー予選 ST-2 正式結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	6	新菱オート DIXCEL 夢住まい館エボ 10	2'20.460
2	225	KTMS GR YARIS	2'20.827
3	13	ENDLESS GR YARIS	2'23.143
4	743	Honda R&D Challenge FL5	2'23.190
5	7	新菱オート DIXCEL エボ 10	2'23.378

3月18日　公式予選 Dドライバー予選 ST-2 正式結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	7	新菱オート DIXCEL エボ 10	2'20.795
2	225	KTMS GR YARIS	2'20.799
3	13	ENDLESS GR YARIS	2'22.886
4	743	Honda R&D Challenge FL5	2'23.735

RACE

金曜の午後、さらに土曜と悩まされてきたトラブルを乗り越え、迎えた3月19日の決勝レース。ST-2クラス5番手から戦うKTMS GR YARISは、荒川がステアリングを握りスタートすると、オープニングラップを終えてそのままピットに入る。トラブルではなく、90秒のペナルティストップをこなすためだ。混戦のなかでタイムを浪費するのではなく、すぐにペナルティを消化することでタイムロスをなくし、コースが空いているところで復帰することで、高いペースを保とうという狙いだ。

狙いは良かったものの、コースに戻ると期待ほど空いているわけではなかった。とはいえ荒川のペースが悪いわけではなく、速いときには2分22秒台のラップも記録しながらの走行となり、ちょうどピットインをうかがっていたタイミングで、コース上に液体漏れがあったことからセーフティカーが導入され、好タイミングとばかりにチームは荒川をピットに呼んだ。

代わってKTMS GR YARISのステアリングを握ったのは一條。チームにとって定番と言えるフロントのみのタイヤ交換を行うと、コンディションの変化にもうまく対応し、37周目には2分20秒916のベストタイムを記録するなど、さすがのスピードをみせていく。トップを走る#743 シビックとのタイム差はあるが、しっかりと2番手をキープ。さらに#743 シビックも射程圏内に入れる戦いをみせていった。90秒のペナルティストップを跳ね返す、貫禄のレース展開と言えた。

一條は62周までしっかりと自らのスティントをこなしピットイン。チームでの初レースに臨んだ奥本にステアリングを託した。こちらもペースは悪くなく、ジワジワと#743 シビックを追っていった。この展開ならば、終盤にはトップ争いもできそうな勢いがあった。

しかし76周目、日立Astemoシケイン立ち上がりで奥本は左フロントに異変を感じ取った。異変は1コーナーで本格化してしまい、KTMS GR YARISはスローダウンを強いられた。場内のモニターには、左フロントから白煙が上がり、タイヤがあらぬ方向を向いている様子が映し出される。奥本はなんとかピットに戻ろうとしたものの、ヘアピン立ち上がりで駆動を失い、コースサイドにKTMS GR YARISを止めざるを得なくなってしまった。2021年の鈴鹿以来のストップだ。

実は奥本に交代する際に、左フロントのタイヤ交換でハブボルトが1本入らなかったのだ。残りの4本で耐えきれるとは思われたものの、結果的にすべてのハブボルトが折れてしまったことがトラブルの原因となった。今季、作業時間短縮を目指しインパクトレンチを変更したが、これが関係しているのかは分からない。

最終的に、レースは大きなアクシデントが起き短縮されて終わったこともあり、KTMS GR YAISは完走扱いの4位となったのは不幸中の幸いだった。連覇を狙うチームにとって、今回の結果は新体制の初レースを飾れなかったという意味で、非常に悔しいものとなった。

2020年、KTMSが初めてスーパー耐久に挑戦を開始したレースでも、クラッシュから決勝に出走できない悔しいレースとなった。しかしそこからチームは強さと速さを増してきた。今回のレースは、新たなコンセプトを掲げるチームが、さらに強くなるための試練ととらえたい。

神戸トヨペット

KTMS
KOBE TOYOPET MOTOR SPORTS

SuperTaikyu
JapaneseEnduranceRace

DRIVER'S VOICE

一條 拳吾　KENGO ICHIJO

レースでは荒川選手からバトンを受け取り、いつもどおりフロントの二輪交換でピットアウトしましたが、序盤からフロントが厳しくなり、終始アンダーステアがある状態で苦しんだのですが、そのなかでも燃費を守りつつ、やれることをすべてやって追い上げられたと思います。今季自分の立場でもある、若手のみんなに伝えられることを、シートから伝えられるようにしました。次の奥本選手も良いペースで走れましたし、結果は残念でしたが、木曜からみんなでレースを作っていくと言う意味では、良い一戦だったのではないでしょうか。次こそは、ですね。

荒川 麟　RIN ARAKAWA

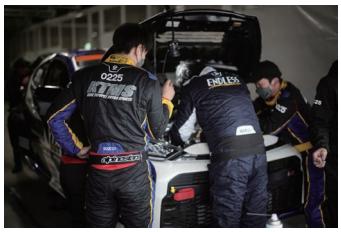
僕のファーストスティントはペナルティの消化もありましたが、コースに復帰してからの位置もあまり良くなかったように感じました。ただ、しっかりと走行することができましたし、タイヤの使い方など昨年よりも成長できたのではないかと感じました。最終的にトラブルでストップすることになってしまいましたが、誰も悪いことではないですし、今回こうしてトラブルが出たことで、大事なレースとなる富士 24 時間に向けて、しっかりと対策できるのではないかと思っています。

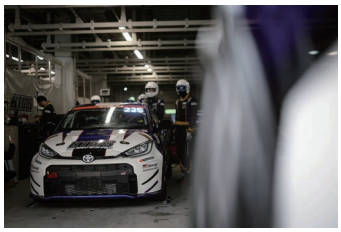
奥住 慈英　JIEI OKUZUMI

息ができなくなるくらい悔しいです。誰が悪いとかではないのですが、ただただ悔しいです。今回のレースではＡドライバーのペナルティもありましたが、すごく大きなギャップをみんなで力を合わせて埋め、それを跳ね返して勝てそうな感触があったので、なおさらです。繰り返しになってしまいますが、悔しいしか出てこないです。とはいえ、これがポイントが大きい富士 24 時間で出てしまったら元も子もなくなってしまいます。開幕戦で出たことを前向きに捉えるしかないですね。もう気持ちは次戦に向かっています。

奥本 隼士　Shunji Okumoto

初めてのレースとなりましたが、レースでは僕がドライブする前から荒川選手、一條選手からいただいたフィードバックを頭に入れて臨みました。そのとおりの印象で、走っているうちにバランスも良くなって好ペースで走ることができていたのですが、シケインの立ち上がりで急に異音があり、１コーナーでステアリングが効かなくなってしまいました。ピットに戻ろうと思いましたが……。レースウイーク始まってからいろんなことがありましたが、今回経験したことをしっかりと復習し直して、ドライバーとしてもチームに貢献できるようにしたいですね。





3月 19 日　スーパー耐久 第１戦鈴鹿　決勝レース結果

Pos.	No.	Car Name	Laps	Total Time	Gap
1	743	Honda R&D Challenge FL5	93	4:14'05.915	
2	13	ENDLESS GR YARIS	93	4:14'15.463	9.548
3	7	新菱オート DIXCEL エボ１０	91	4:15'40.509	2Laps
4	225	KTMS GR YARIS	77	3:23'39.031	16Laps
	6	新菱オート DIXCEL 夢住まい館エボ１０	26	1:02'27.921	67Laps

神戸トヨペット